

**海外渡航経験者対象  
侵襲性髄膜炎菌感染症(IMD)  
予防ワクチン接種に関するアンケート調査  
結果報告書**

**平成26年4月24日**

**株式会社QLife(キューライフ)**

## 調査の背景

日本人にとって新たな脅威として警戒が必要な感染症に侵襲性髄膜炎菌感染症 (IMD) がある。IMDは、10代が罹患する可能性が高いとされる病気で、その初期症状は、吐き気や倦怠感など風邪の症状と似ており診断が難しい。罹患すると非常に短時間で進行が進み、時として24～48時間以内に死に至る可能性がある。罹患率は低いものの重篤性が高く、回復した場合にも約11～19%の割合で四肢麻痺、難聴、けいれん発作、または精神運動遅延などの生涯続く後遺症が残る。人から人への飛沫・接触感染で広がり、寮等での集団生活や人が多く集まる環境において、発症リスクが高くなる疾患だ。世界全体では毎年30万人の患者が発生。特に、髄膜炎ベルトとよばれるアフリカ中央部において発生が多く、3万人の死亡例が出ている。ところが近年、わが国を含め、先進国でも散発的な感染が確認されており、特定地域における風土病としてではなく、どこの国においても対策が必要な疾患として、理解を深める必要がある。

わが国においては、1945年前後には4000例を超える患者がいたが、その後、減少し、1999年以降は、年間7～21件の発生に留まっていた。しかし、2011年5月、宮崎県の実業学校で集団感染が発生、4名が発症し、1名が死亡、保菌者は8名に上った。国内での集団発生を重く見た文部科学省は、2012年4月、学校保健安全法第18条に定められる「学校で予防すべき感染症」第二種に、IMDの代表的症状である「髄膜炎菌性髄膜炎」を追加。さらに2013年4月の感染症法の改定で、全数報告対象となる第5類感染症に規定される疾患が、従来の髄膜炎菌性髄膜炎から、髄膜炎菌を起炎とする髄膜炎・有症状の菌血症・敗血症などを含めた「侵襲性髄膜炎菌感染症」に拡大された。対象疾患が増えたこともあり、2013年4月から2014年3月までの報告件数は32件と、2012年度1年間の報告件数13件から倍増している。

10代の感染リスクが高いとされるIMDは、保菌者の中で、なぜ特定の人だけが発症するのかなど、IMDの発症メカニズムはまだ解明されていないが、予防にはワクチンが有効であることが分かっている。現在のところ、国内で承認されたワクチンはないが、海外では既に米国やカナダをはじめとする多くの国でIMD予防ワクチンが使用されており、国内でもワクチンの導入が期待されている。

そこで、QLifeでは、感染リスクが相対的に高い海外渡航経験者に調査を行い、髄膜炎ワクチンに関する意識調査を行った。なお、同時に本人／家族がリスクの高い大学・専門学校（1年生ならびに小学5、6年生を持つ母親）の調査も行っている。

## 主な結論

今回の調査から、渡航者の疾患リスク管理について、海外での感染リスクに加え、キャリアとして国内での感染源になる可能性があることから、積極的に情報収集や対策・準備を行っていることが分かった。しかしながら、約3人に2人の65.8%が「対策や準備を行った」ものの、注意すべき疾患の一つであるIMDについては、41.1%が「知らなかった」と回答するなど、情報収集が不完全である可能性が推察される。外務省や厚生労働省などの国に加え、旅行会社や航空会社などの民間も含めた情報提供のさらなる強化が必要と思われる。

## 結論の概要

- 1) 海外渡航者の58.1%が病気のリスクを調査。対策や準備を行ったのは65.8%  
主な情報源は「旅行ガイドブック」「旅行サイト」「外務省」「旅行会社」など。  
渡航先の感染症情報について、48.5%が「十分な」「ある程度の」情報がある、と回答。
- 2) IMDについて「よく知っている」7.6%「ワクチンで予防できることを知っている」17.8%  
IMDについて、41.1%が「全く知らなかった」と回答。ワクチンによって予防できる病気であることを「知らない」のは82.2%。
- 3) 9割以上がIMDを「非常に怖い」「やや怖い」病気と認識  
「罹患率が低いものの重症度が高く、生存した場合でも一定確率で後遺症が残る」という説明に強く共感。IMDに対するワクチン接種についても95%以上が「重要」「やや重要」と回答。
- 4) IMDワクチン「とても接種したい」「やや接種したい」73.3%  
IMDの詳細な情報を知る前と比較して、「とても接種したい」18.3ポイント増加。「あまり接種したくない」「全く接種したくない」4.9ポイント減少。
- 5) ワクチン接種「安全性」「防げる病気の症状や見分け方」を知りたい。情報源は「厚生労働省」「かかりつけの病院・クリニック」から信頼性高い  
ワクチン接種の検討のきっかけは「かかりつけの病院・クリニック」「その地域に行ったことのある経験者」に勧められることが多数に。

## 【調査実施概要】

### ▼調査主体

株式会社QLife(キューライフ)

### ▼実施概要

- (1) 調査対象: 過去5年間に海外渡航(旅行、留学、出張、赴任など)の経験がある人
- (2) 有効回収数: 1203人
- (3) 調査方法: インターネット調査
- (4) 調査時期: 2013/11/27 ~2013/12/8

### ▼有効回答者の属性

- (1) 過去5年間の海外渡航(旅行、留学、出張、赴任など)の経験:

	n	%
1回	172	14.3%
2~3回	341	28.3%
4~6回	301	25.0%
7回以上	389	32.3%
総数	1203	100.0%

- (2) 過去の渡航先:

	n	%
中国、香港、マカオ、台湾、韓国	932	77.5%
東南アジア	603	50.1%
西ヨーロッパ	428	35.6%
アメリカ本土、カナダ	343	28.5%
ハワイ	282	23.4%
グアム・サイパン	220	18.3%
東ヨーロッパ	193	16.0%
オセアニア	166	13.8%
中南米	104	8.6%
中近東	94	7.8%
インド	87	7.2%
北欧	83	6.9%
アフリカ北部	65	5.4%
ロシア	45	3.7%
中央アジア	32	2.7%
アフリカ中部	24	2.0%
アフリカ南部	19	1.6%
その他	14	1.2%
総数	1203	310.4%

(4) 性別・年代:

年代	男性	女性	n
20代	15	53	68
30代	81	130	211
40代	193	148	341
50代	188	113	301
60代	153	60	213
70代以上	61	8	69
総計	691	512	1203

(5) 居住地:

北海道 4.3%	青森県 0.9%	岩手県 0.6%	宮城県 2.3%	秋田県 0.3%	山形県 0.3%	福島県 0.5%	茨城県 0.9%	栃木県 1.0%	群馬県 0.7%
埼玉県 5.6%	千葉県 5.1%	東京都 13.8%	神奈川県 10.2%	新潟県 1.4%	富山県 0.3%	石川県 0.7%	福井県 0.7%	山梨県 0.5%	長野県 1.3%
岐阜県 1.4%	静岡県 2.3%	愛知県 8.1%	三重県 1.0%	滋賀県 1.0%	京都府 1.8%	大阪府 7.1%	兵庫県 8.5%	奈良県 1.2%	和歌山県 0.6%
鳥取県 0.5%	島根県 0.2%	岡山県 2.1%	広島県 2.2%	山口県 0.8%	徳島県 0.4%	香川県 0.7%	愛媛県 1.0%	高知県 0.4%	福岡県 3.6%
佐賀県 0.4%	長崎県 0.6%	熊本県 1.2%	大分県 0.4%	宮崎県 0.1%	鹿児島県 0.1%	沖縄県 0.8%			

**【Q1】渡航前に現地の感染症情報など、病気のリスクを調べましたか。**

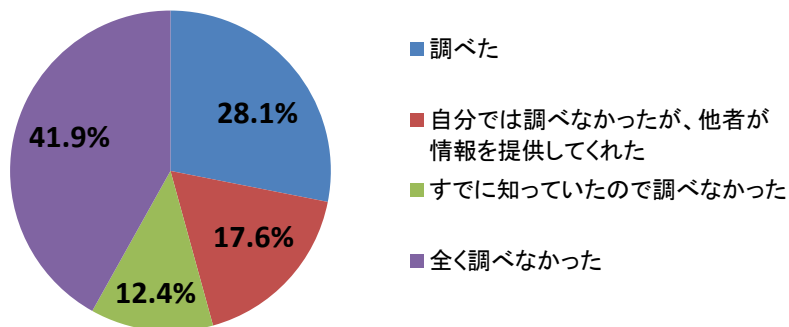
「すでに知っていた」「他者が情報を提供してくれた」も含めると約6割の渡航者が病気のリスクを調べている。

n=1203

(SA)

	n	%
調べた	338	28.1%
自分では調べなかったが、他者が情報を提供してくれた	212	17.6%
すでに知っていたので調べなかった	149	12.4%
全く調べなかった	504	41.9%
総数	1203	100.0%

**渡航前に現地の感染症情報など  
病気のリスクを調べたか**



n=1203

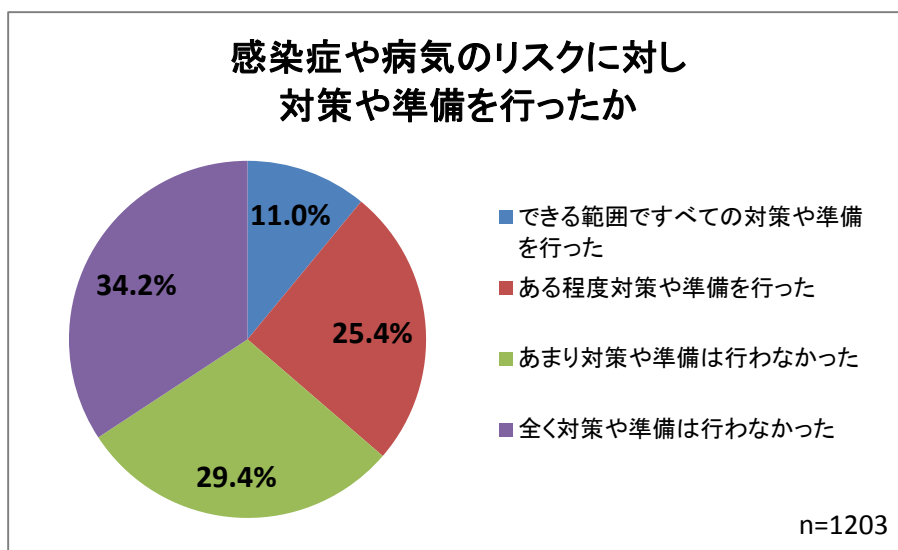
**【Q2】感染症や病気のリスクに対し、対策や準備を行いましたか。**

「すべて行った」「ある程度行った」と回答したのは36.4%。一方、34.2%の渡航者が「全く行わなかった」と回答した。

n=1203

(SA)

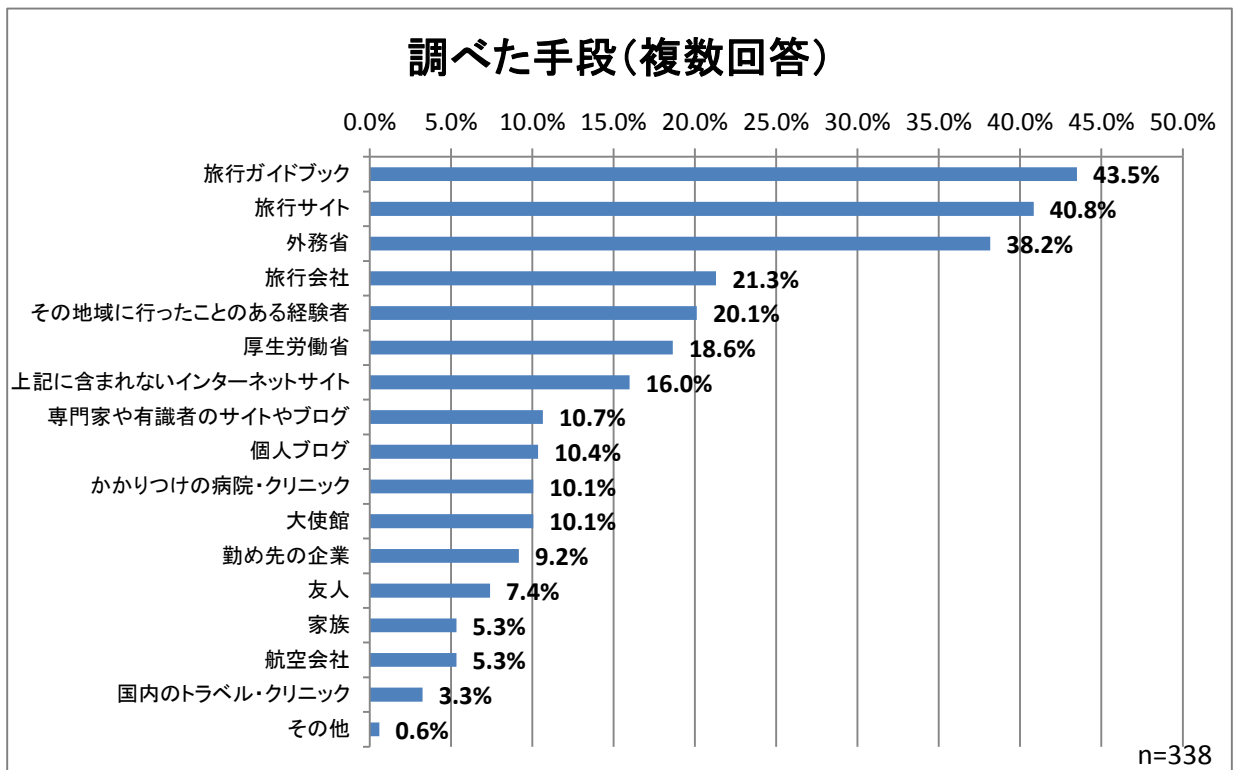
	n	%
できる範囲ですべての対策や準備を行った	132	11.0%
ある程度対策や準備を行った	305	25.4%
あまり対策や準備は行わなかった	354	29.4%
全く対策や準備は行わなかった	412	34.2%
総数	1203	100.0%



【Q3】どのような手段で調べましたか。当てはまるものすべてを教えてください。(Q1で『調べた』と答えた人のみ回答)(複数回答)

情報源について、1人あたり2.7の情報元から情報を収集していた。最も多かったのが「旅行ガイドブック」の43.5%。次いで、「旅行サイト」「外務省」「旅行会社」だった。

	n	(MA) %
旅行ガイドブック	147	43.5%
旅行サイト	138	40.8%
外務省	129	38.2%
旅行会社	72	21.3%
その地域に行ったことのある経験者	68	20.1%
厚生労働省	63	18.6%
上記に含まれないインターネットサイト	54	16.0%
専門家や有識者のサイトやブログ	36	10.7%
個人ブログ	35	10.4%
かかりつけの病院・クリニック	34	10.1%
大使館	34	10.1%
勤め先の企業	31	9.2%
友人	25	7.4%
家族	18	5.3%
航空会社	18	5.3%
国内のトラベル・クリニック	11	3.3%
その他	2	0.6%
総数	338	270.7%





【Q4】調べなかった理由について詳細に教えてください。(Q1で『全く調べなかった』と答えた人のみ回答)

以下に代表的な回答を列記する

- ・自分には関係ないと思った
- ・一般的なリスク管理で事足りると判断したから
- ・ヨーロッパで感染症のリスクがあるとは想定していなかったから
- ・ツアーだから食べ物など大丈夫という意識から
- ・会社からの注意無し
- ・病気になった場合、保険に入っているので、現地の病院で対応できると思った
- ・旅行会社の担当者から何も話がなかったから。
- ・親族(妻の実家)訪問なので必要ないと思ったから。
- ・途上国でもないのに、あまり危機感もなく、危険だと思わなかったし、意識もしていな・都市中心であったので、特別な感染症はないと考えていました。一度は新型インフルエンザが日本でも流行しているさなかでしたので、その時にはマスクを持参するなどはしました。
- ・一週間程度の滞在であり、リスクはあまり高くないと思ったから
- ・日本人に人気の観光地であるため、大丈夫だと考えていた。また、あまり準備の時間がなかった。
- ・秘境とか、危ない地域ではないと思っていたから。
- ・考えが及ばなかった
- ・日本と変わらないと思ったので
- ・渡航先に感染症情報が表だってなかった
- ・何が流行っているか知らなかったから
- ・特に心配ないと思ったから
- ・台湾は日本と近い国なので外国とは言ってもあまり不安を感じなかったし、都市部だけの訪問だったのでそこまで気にする必要はないと思っていたから。
- ・行き先が先進国ばかりだったので大丈夫だと思った

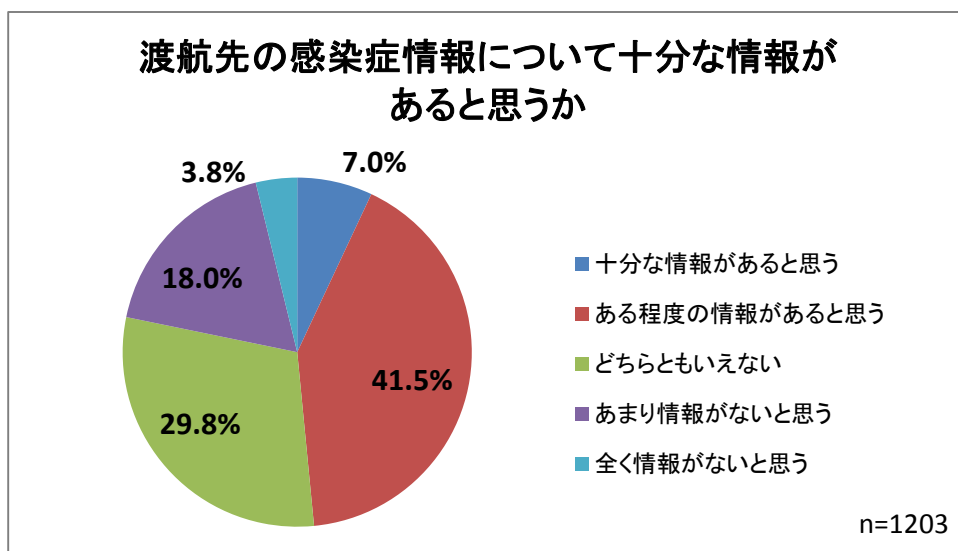
【Q5】渡航先の感染症情報について、十分な情報があると思いますか。

48.5%が「十分な」「ある程度の」情報がある、と回答。一方、「あまり」「全く」情報が無い、と回答した渡航者は21.8%だった。

n=1203

(SA)

	n	%
十分な情報があると思う	84	7.0%
ある程度の情報があると思う	499	41.5%
どちらともいえない	358	29.8%
あまり情報がないと思う	216	18.0%
全く情報がないと思う	46	3.8%
総数	1203	100.0%



【Q6】病気の予防や健康管理について、最も近いものを教えてください。

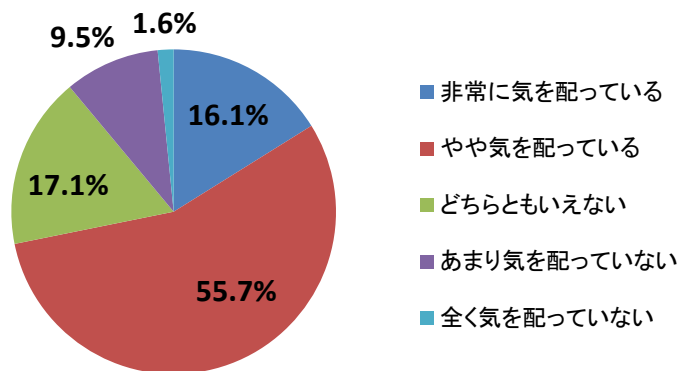
71.8%が「非常に」「やや」気を配っていると回答した。一方、「あまり」「全く」気を配っていない、と回答したのは11.1%だった。

n=1203

(SA)

	n	%
非常に気を配っている	194	16.1%
やや気を配っている	670	55.7%
どちらともいえない	206	17.1%
あまり気を配っていない	114	9.5%
全く気を配っていない	19	1.6%
総数	1203	100.0%

病気の予防や健康管理に気を配っているか



n=1203

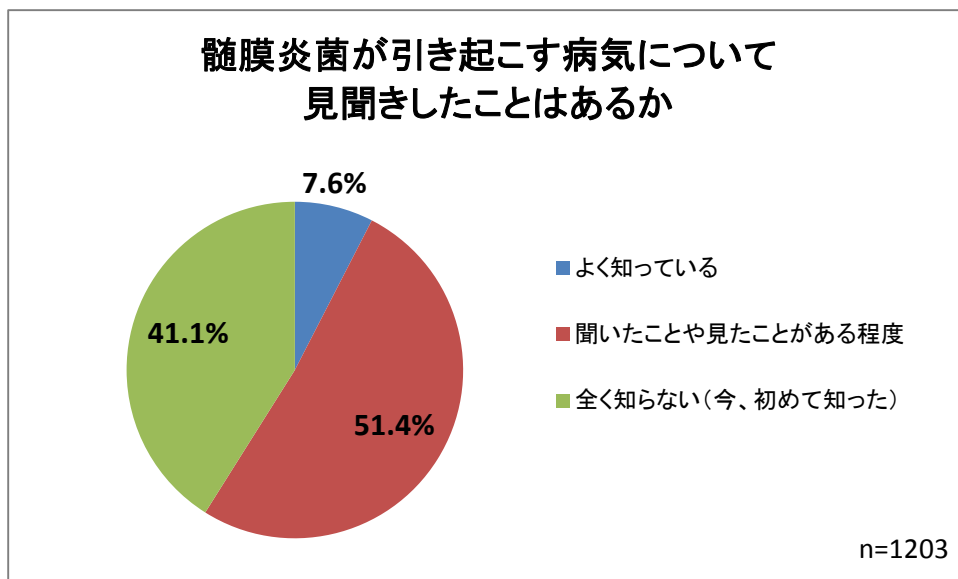
【Q7】髄膜炎菌が引き起こす病気について、見聞きしたことはありますか。

何らかの形で知っていると回答したのは59.0%だった。しかし、その大半が「聞いたことや見たことがある程度」で、「よく知っている」と回答したのは7.6%にとどまる。

n=1203

(SA)

	n	%
よく知っている	91	7.6%
聞いたことや見たことがある程度	618	51.4%
全く知らない(今、初めて知った)	494	41.1%
総数	1203	100.0%



【Q8】IMD(=侵襲性髄膜炎菌感染症:髄膜炎菌が引き起こす病気を総称してこう呼びます)は、ワクチンによって予防できる病気です。このことをご存じでしたか。

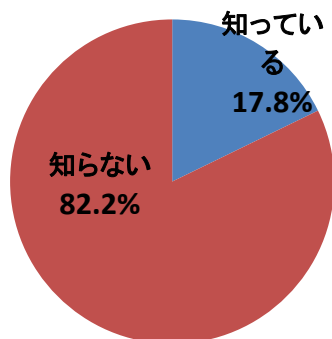
17.8%が「知っている」と回答した。

n=1203

(SA)

	n	%
知っている	214	17.8%
知らない	989	82.2%
総数	1203	100.0%

IMD(侵襲性髄膜炎菌感染症)が  
ワクチンによって予防できる病気であるこ  
とを知っていたか



n=1203

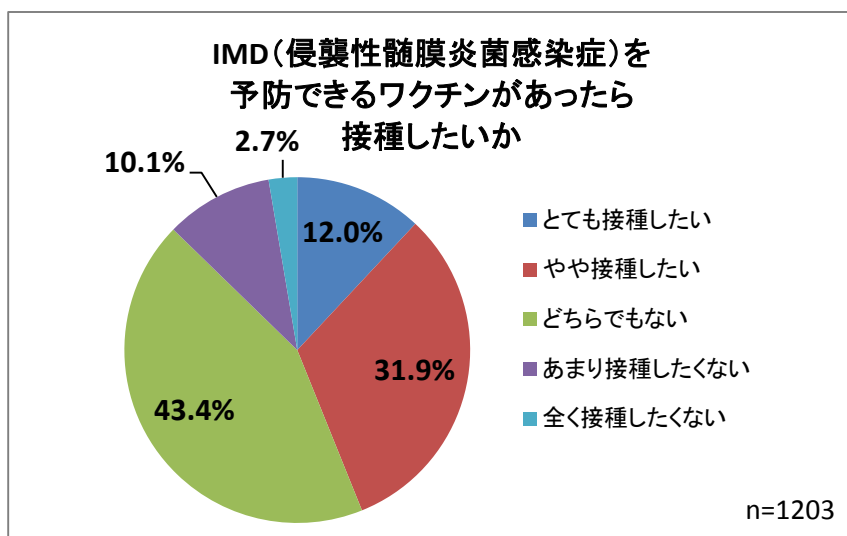
【Q9】 IMD(侵襲性髄膜炎菌感染症)を予防できるワクチンがあったら接種したいですか。

「とても」「やや」接種したいと回答したのは、全体の43.9%。一方、「あまり」「全く」接種したくないと、12.8%が回答した。

n=1203

(SA)

	n	%
とても接種したい	144	12.0%
やや接種したい	384	31.9%
どちらでもない	522	43.4%
あまり接種したくない	121	10.1%
全く接種したくない	32	2.7%
総数	1203	100.0%



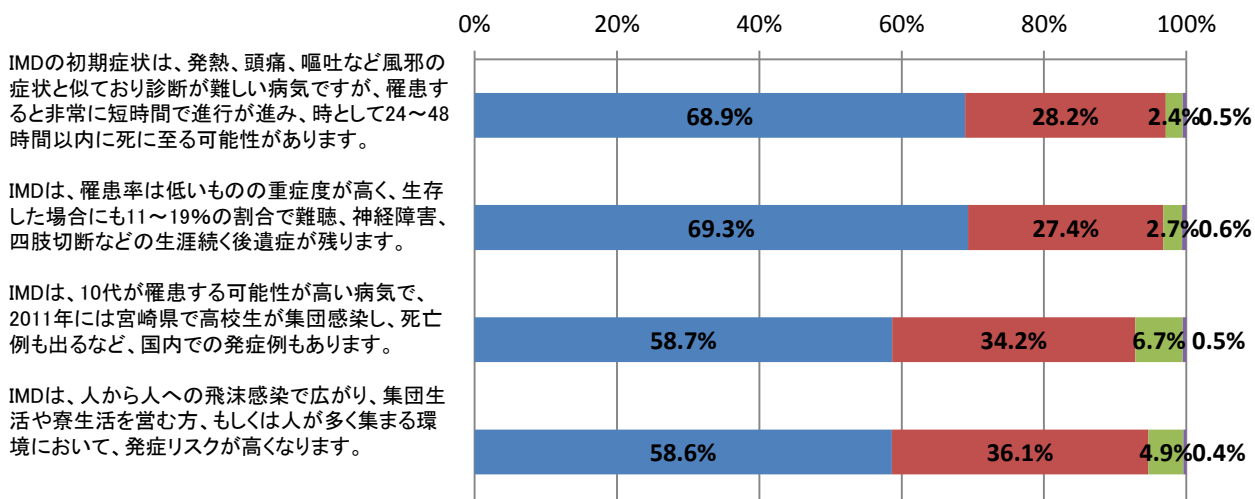
## 【Q10】IMDについて知って、自身の気持ちに最も近いものを教えてください。

全説明において、9割以上の渡航者がIMDについて「非常に怖い」「やや怖い」病気だと思ふ、と回答。「非常に怖い病気だと思ふ」と回答した比率が最も高かったのは「IMDは罹患率は低いものの重症度が高く、生存した場合にも11～19%の割合で難聴、神経障害、四肢切断などの生涯続く後遺症が残ります。」という説明だった。

	IMDは「非常に怖い」病気だと思ふ	IMDは「やや怖い」病気だと思ふ	IMDは「それほど怖くない」病気だと思ふ	IMDは「全く怖くない」病気だと思ふ	n	IMDは「非常に怖い」病気だと思ふ	IMDは「やや怖い」病気だと思ふ	IMDは「それほど怖くない」病気だと思ふ	IMDは「全く怖くない」病気だと思ふ	%
IMDの初期症状は、発熱、頭痛、嘔吐など風邪の症状と似ており診断が難しい病気ですが、罹患すると非常に短時間で進行が進み、時として24～48時間以内に死に至る可能性があります。	829	339	29	6	1203	68.9%	28.2%	2.4%	0.5%	100.0%
IMDは罹患率は低いものの重症度が高く、生存した場合にも11～19%の割合で難聴、神経障害、四肢切断などの生涯続く後遺症が残ります。	834	330	32	7	1203	69.3%	27.4%	2.7%	0.6%	100.0%
IMDは、10代が罹患する可能性が高い病気で、2011年には宮崎県で高校生が集団感染し、死亡例も出るなど、国内での発症例もあります。	706	411	80	6	1203	58.7%	34.2%	6.7%	0.5%	100.0%
IMDは、人から人への飛沫感染で広がり、集団生活や寮生活を営む方、もしくは人が多く集まる環境において、発症リスクが高くなります。	705	434	59	5	1203	58.6%	36.1%	4.9%	0.4%	100.0%

### IMDについて知って、自身の気持ちに最も近いもの

- IMDは「非常に怖い」病気だと思ふ
- IMDは「やや怖い」病気だと思ふ
- IMDは「それほど怖くない」病気だと思ふ
- IMDは「全く怖くない」病気だと思ふ



**【Q11】IMDについて知って、自身の気持ちに最も近いものを教えてください。(IMDに対するワクチンの重要性について)**

全説明において、95%以上の渡航者がワクチン接種は「重要」「やや重要」と回答した。最も「重要」であると回答した比率が高かったのが「IMDは、国内では2012年に文部科学省が定める学校保健法において、「IMDは、海外では主に中部アフリカ地域で流行しています。中部アフリカ地域への行く際は感染のリスクを避けるために渡航前にワクチンを接種することが推奨されています。」という説明だった。

	IMDに対するワクチン接種は重要だと思う	IMDに対するワクチン接種はやや重要だと思う	IMDに対するワクチン接種はそれほど重要とは思わない	IMDに対するワクチン接種は重要とは思わない	n	IMDに対するワクチン接種は重要だと思う	IMDに対するワクチン接種はやや重要だと思う	IMDに対するワクチン接種はそれほど重要とは思わない	IMDに対するワクチン接種は重要とは思わない	%
IMDは、海外からの入国者によって持ち込まれることもあります。例えば、米国や英国の大学では予防接種が入学の際に求められるケースもあるほどです。	679	465	53	6	1203	56.4%	38.7%	4.4%	0.5%	100.0%
IMDは、国内では2012年に文部科学省が定める学校保健法において、「学校において予防すべき感染症」として指定されました。罹患した場合、医師の許可が出るまで登校はできません。	697	449	49	8	1203	57.9%	37.3%	4.1%	0.7%	100.0%
IMDは、海外では主に中部アフリカ地域で流行しています。中部アフリカ地域への行く際は感染のリスクを避けるために渡航前にワクチンを接種することが推奨されています。	794	362	41	6	1203	66.0%	30.1%	3.4%	0.5%	100.0%
IMDは、一度罹患すると適切な治療を行った場合でも後遺症が残ることがあります。そのため、罹患する前の予防が重要とされています。現在のところ、ワクチン接種が唯一の予防法ですが、2013年時点で、国内で承認されているワクチンはありません。	730	408	53	12	1203	60.7%	33.9%	4.4%	1.0%	100.0%



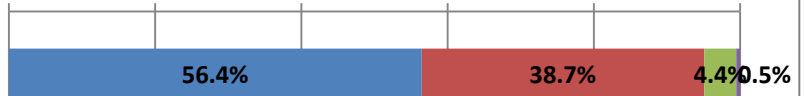
【Q11】IMDについて知って、自身の気持ちに最も近いものを教えてください。(つづき)

## IMDについて知って、自身の気持ちに最も近いもの (IMDに対する予防ワクチンの重要性)

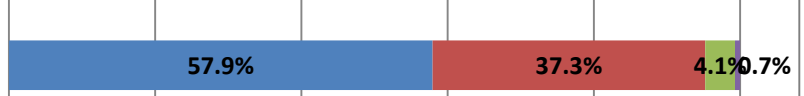
- IMDに対するワクチン接種は重要だと思う
- IMDに対するワクチン接種はやや重要だと思う
- IMDに対するワクチン接種はそれほど重要とは思わない

0% 20% 40% 60% 80% 100%

IMDは、海外からの入国者によって持ち込まれることもあります。例えば、米国や英国の大学では予防接種が入学の際に求められるケースもあるほどです。



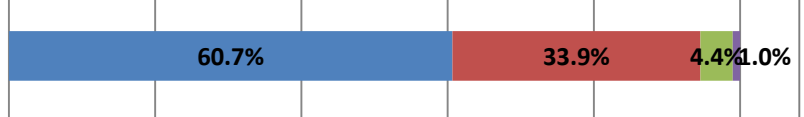
IMDは、国内では2012年に文部科学省が定める学校保健法において、「学校において予防すべき感染症」として指定されました。罹患した場合、医師の許可が出るまで登校はできません。



IMDは、海外では主に中部アフリカ地域で流行しています。中部アフリカ地域への行く際は感染のリスクを避けるために渡航前にワクチンを接種することが推奨されています。



IMDは、一度罹患すると適切な治療を行った場合でも後遺症が残ることがあります。そのため、罹患する前の予防が重要とされています。現在のところ、ワクチン接種が唯一の予防法ですが、2013年時点で、国内で承認されているワクチンはありません。



【Q12】前問までの内容を踏まえて、IMDを予防するワクチンが接種できるとして、あなたの気持ちに最も近いものを教えてください。

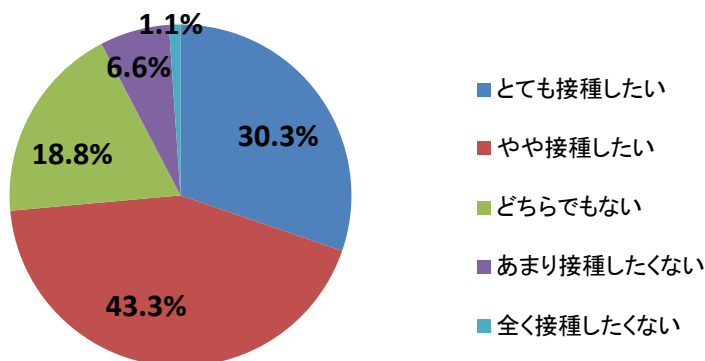
IMDについて説明した後のワクチン接種意向について、73.3%の渡航者が「とても」「やや」接種したい、と回答した。説明前に接種意向を尋ねたQ9と比較すると、「とても接種したい」は12.0%→30.3%と18.3ポイントの大幅な増加、「やや接種したい」は31.9%→43.3%、「あまり接種したくない」「全く接種したくない」の合計は12.8%→7.9%と4.9ポイント減少した。

n=1203

(SA)

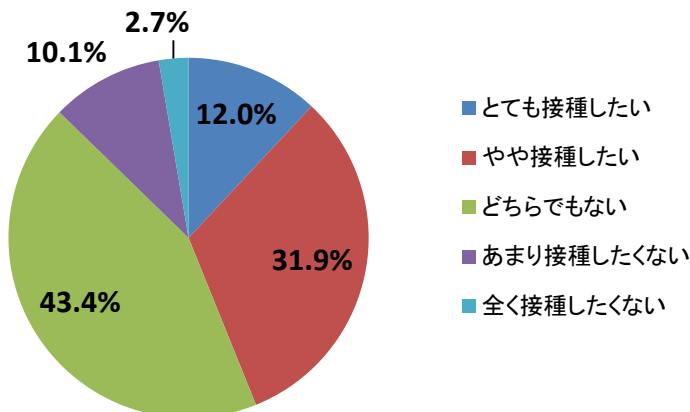
	n	%
とても接種したい	364	30.3%
やや接種したい	521	43.3%
どちらでもない	226	18.8%
あまり接種したくない	79	6.6%
全く接種したくない	13	1.1%
総数	1203	100.0%

### 前問までの内容を踏まえてIMDを予防する ワクチンを接種したいと思うか



n=1203

### (参考)Q9 IMDに関する情報を知らない状態 でのワクチン接種意向



n=1203

### 【Q13】前問でそうお答えになった理由について、詳細に教えてください。

以下に回答別に代表的なコメントを列記する。

#### 【とても接種したい】

- ・若い人が罹りやすい病気だと思っていたが感染力が非常に高そうなので心配になった。よく海外旅行に行くが安全なところしか行ってないと思っていたが、感染者に遭遇しない自信がなくなった。
- ・子供が3人もいるので自分がもし感染したら未来がある子供達に迷惑をかけてしまうので
- ・直接中部アフリカに行く訳ではないが、空港や飛行機内では様々な国の人達がいる訳で、どんなところにも危険はある。少しでもリスクを抑えたい。
- ・軽く考えていたが、危険性が高いのでワクチンは接種するべきだと思う
- ・急性の症状がこわい。後遺症がこわい。子供や孫と同居しているので、歓声したらと思うと気が気でないから予防が出来るのであればしたい。
- ・海外(中国)へ行くことが多く、特にそこでもアフリカ系の人たちと一緒に行動する機会が多いため。
- ・自分の身も大事だが、家族や周辺の人にも影響を与えるものなので、みんなが罹患しないよう配慮すべきと考えます。
- ・罹患する確率は低いですが、飛沫感染することや、感染した時の、死亡率や後遺症が残る確率が高いので、予防接種を受けることは大切だと思う。
- ・数年前だが同僚が感染症で早期に死亡したので、同地域への渡航が多いので予防接種はしたいと考えている。
- ・日本脳炎や肝炎と同じような危険度と思うので、ワクチン接種をしたほうが良いと思う。ただ子宮頸がんと同じく、副作用が懸念されるので、義務化するためには詳しい調査が必要である。
- ・リスクの高い病気、ある程度海外でも認知度が高く、ワクチンの効果が評価されているならば、症状や影響度を考えた場合、義務に近い制度で対応すべきと考えます。
- ・ガーナへ渡航しましたので接種しています。国内で接種してから渡航しましたが、現地でも打ってます。海外渡航が珍しくない時代ですし、海外の方も日本へ来られますので、日本人もこういったワクチンで自衛すべきですが、存在を知らない人が圧倒的多数です。日本のワクチン行政のおざなりさを感じずにはいられません。
- ・如何なる感染症に対しても、ワクチン接種で感染を防げるのであれば、接種すべきと思う。ましてや感染力が強く、死に至るケースがある場合や後遺症が残る可能性がある感染症については、尚更、予防接種は必要と思うので。

#### 【やや接種したい】

- ・予防できるなら是非したいが、病院が限定で不便が懸念されそうだから。
- ・アフリカ中部へ行く予定があるのであれば、副作用のことも調べた上考えたい。
- しかし、年齢的にも、今の生活環境を考えると、罹患する確率は高くないと思うから。
- ・アフリカ等の高リスク国に行く場合は摂取したいと思うが、今までの説明ではワクチン接種の副作用に言及が無いためなんとも判断しがたい。
- ・国外へ、特にアフリカへ行くときは必須に思う。黄熱病ワクチンとのマッチングは大丈夫なのか？
- ・実際に危険の高い地区に渡航するときには接種したいと思うが、日本にいるだけなら必要かどうか微妙。副作用のこともあるので、ちょっと考えると思います。
- ・急激な症状の悪化と、適切な治療法が無い、感染力が強い、回復しても後遺症が残る場合もあると言うのが現状なので、もしどうしても流行地へ行く場合は接種したい。
- ・日本であまりこの接種をした前例がなさそうなので予防接種したことで起こる副作用が心配だから、接種したいけど思い悩む。
- ・家庭の医療費が現時点でも高額になっていて、ワクチン接種に回せるお金を捻出できるか、分からないから。
- ・あまりアフリカに行くことは無いが、渡航した人間もいるわけだし、飛沫感染するのであれば、必要だと思う。対象地域に渡航する場合、義務付け入国にあたっては厳重にすべき
- ・費用が気になる。1万円以上すると接種しないと思う。5,000円位なら接種すると思う(海外に行く場合)。
- ・この感染症がリスクが大ききことを初めて知りましたが、現在どのあたりの国でどの程度流行しているのかの情報が少ないので、接種に対しても積極的にしたいとは感じられません。
- ・IMDにかかってしまった場合のリスクがとても大きく深刻であるので、ワクチン接種によりそれを防げるのならば接種したいと思う。しかし、日本で承認されているワクチンがないということであると、ワクチン自体への不安感も出てきます。日本で認められているものでないと安全性が気になります。日本でワクチンが認められたならば、海外に行く際などは積極的に接種したいです。

### 【Q13】前問でそうお答えになった理由について、詳細に教えてください。(続き)

#### 【どちらでもない】

- ・IMDの特性やリスクについて考えたこともなかったので、今後あらためて自分でよく調べてからワクチン接種の要否・是非を吟味したいと思うから
- ・年齢が56歳ということと、アフリカには多分行かないと思うので、感染リスクはかなり少ないと思う。
- ・費用が高そう
- ・衛生状態の悪い国へ行くときは必要かもしれないけれど、ごく普通の国への渡航ならあまり問題ないように思う。
- ・危険な地域には行かないので、日本で承認されたワクチンがないのであれば、当分は接種しないで静観する。
- ・渡航先での発生状況で判断したい。国内では必須とは思わない。
- ・ワクチンの副作用情報がないので判断できない。高齢で、人が密集するところには行かないので、国内でのリスクは低いが、感染地域への渡航などの場合には是非接種を検討したい。
- ・対象国を見てからの対応となる。他の感染症もワクチンの効果が確認されていないものもあり、新型など考えると、摂取するリスクや費用面、時間と、渡航先や日程、医療状況を検討して対応したいので。
- ・日本国内での感染、発症例は希で一般人が罹患する確率は低い。しかも、IMD予防ワクチン接種による副作用について十分の理解がない現在、直ちに予防接種をする気にはなれない。例で言えば、「子宮頸がん」の予防接種の副作用が喧伝されたのは、その一例である。
- ・国内で重要な感染症や遺作が急務なら、牛のBSE対策ほどではないにしろ、新型インフルエンザ並みの厚生労働省の動きがあるはずだが、ダニ感染症ほどの罹患例が聞こえてこないから。国内のワクチン製造設備に限界があるけれども、輸入ワクチンと新しい予防ワクチンには副作用が大きい場合が多く、個人のリスク回避も重要だから。
- ・発症率など病気のリスクと、予防接種以外での予防方法の有無、予防接種によりどの程度重篤な副作用が出るのかなどを詳しく知った上で摂取すべきかどうか判断したいから。
- ・何でもワクチンではキリがない。この病気にかかる恐れがある場合はあらかじめ予防接種を受けた方がよいと思う。

#### 【あまり接種したくない】

- ・罹患して死亡するリスクよりも、ワクチンの安全性のほうを疑問視する
- ・年齢的に感染することは少ないと思われるのと、ワクチンによる後遺症などが気になるので。
- ・アフリカ等に渡航する際は是非接種したいが、国内にいる間は特に緊急の接種の必要性を感じない
- ・ほかにも罹患するリスクのある病気はさまざまある。ワクチン接種で起こる副作用などのリスクもある。人間が生きていくうえで全てのリスクは回避できないので、罹患率の低い病気に対するワクチンの接種の重要性には疑問があります。
- ・子宮頸癌ワクチンの後遺症を見て、歴史が証明していないものは怖いと思うから。

#### 【全く接種したくない】

- ・リスクのある国には行かないし、献血や健康診断を定期的に受けているので感染するとは思えない。
- ・罹患確率が交通事故死の確率より低いと感じる
- ・ワクチンのほうが信用ならない
- ・副作用を考えると予防接種を受けるまでもない

【Q14】ワクチンの接種を検討する際に、知っておきたい情報はありますか。(複数回答)

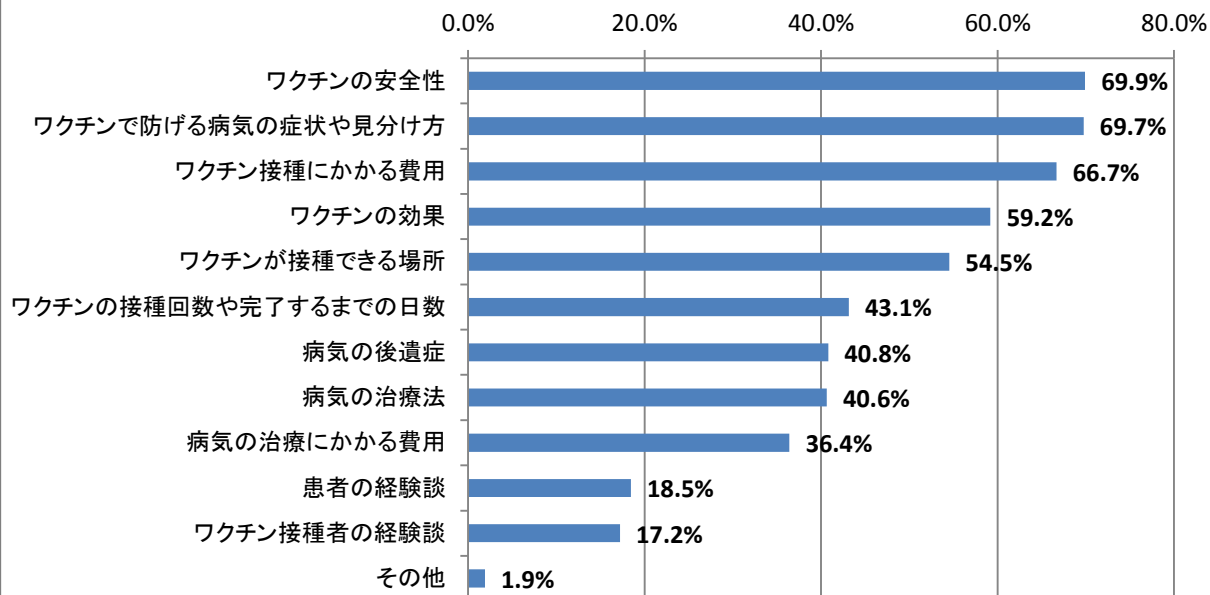
「安全性」と「防げる病気の症状や見分け方」を知りたいという声が多くそれぞれ69.9%と69.7%だった。次いで「費用」「効果」「接種できる場所」だった、

n=1203

(MA)

	n	%
ワクチンの安全性	841	69.9%
ワクチンで防げる病気の症状や見分け方	839	69.7%
ワクチン接種にかかる費用	802	66.7%
ワクチンの効果	712	59.2%
ワクチンが接種できる場所	656	54.5%
ワクチンの接種回数や完了するまでの日数	519	43.1%
病気の後遺症	491	40.8%
病気の治療法	489	40.6%
病気の治療にかかる費用	438	36.4%
患者の経験談	222	18.5%
ワクチン接種者の経験談	207	17.2%
その他	23	1.9%
総数	1203	518.6%

ワクチンの接種を検討する際に知っておきたい情報  
(複数回答)



n=1203

【Q15】誰に勧められたらワクチン接種を検討しようと思いますか。(複数回答)

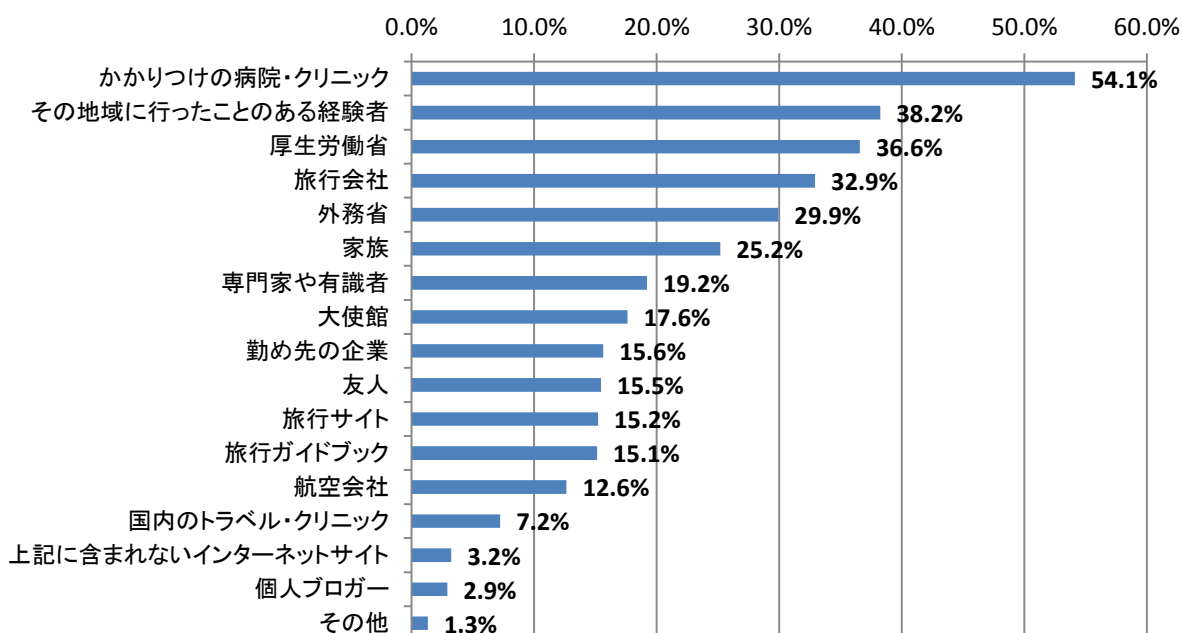
「かかりつけの病院・クリニック」が最も多く54.1%。次いで「その地域に行ったことのある経験者」「厚生労働省」「旅行会社」が続いた。

n=1203

(MA)

	n	%
かかりつけの病院・クリニック	651	54.1%
その地域に行ったことのある経験者	460	38.2%
厚生労働省	440	36.6%
旅行会社	396	32.9%
外務省	360	29.9%
家族	303	25.2%
専門家や有識者	231	19.2%
大使館	212	17.6%
勤め先の企業	188	15.6%
友人	186	15.5%
旅行サイト	183	15.2%
旅行ガイドブック	182	15.1%
航空会社	152	12.6%
国内のトラベル・クリニック	87	7.2%
上記に含まれないインターネットサイト	39	3.2%
個人ブロガー	35	2.9%
その他	16	1.3%
総数	1203	342.6%

誰に勧められたらワクチン接種を検討しようと思うか  
(複数回答)



n=1203

【Q16】ワクチン接種に関する情報は、どこから得るのが最も信頼が高いと思いますか。(複数回答)

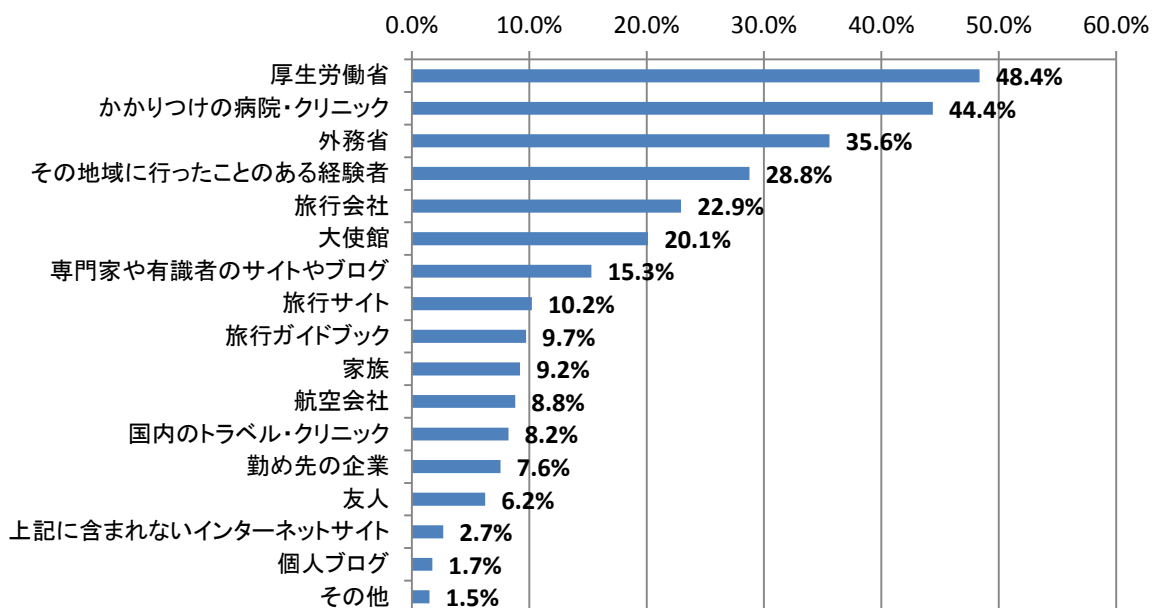
情報源への信頼度については、「厚生労働省」が最も高く48.4%。次いで、「かかりつけの病院・クリニック」「外務省」「渡航経験者」の順になった。

n=1203

(MA)

	n	%
厚生労働省	582	48.4%
かかりつけの病院・クリニック	534	44.4%
外務省	428	35.6%
その地域に行ったことのある経験者	346	28.8%
旅行会社	276	22.9%
大使館	242	20.1%
専門家や有識者のサイトやブログ	184	15.3%
旅行サイト	123	10.2%
旅行ガイドブック	117	9.7%
家族	111	9.2%
航空会社	106	8.8%
国内のトラベル・クリニック	99	8.2%
勤め先の企業	91	7.6%
友人	75	6.2%
上記に含まれないインターネットサイト	32	2.7%
個人ブログ	21	1.7%
その他	18	1.5%
総数	1203	281.4%

ワクチン接種に関する情報はどこから得るのが信頼が高いと思うか(複数回答)



n=1203

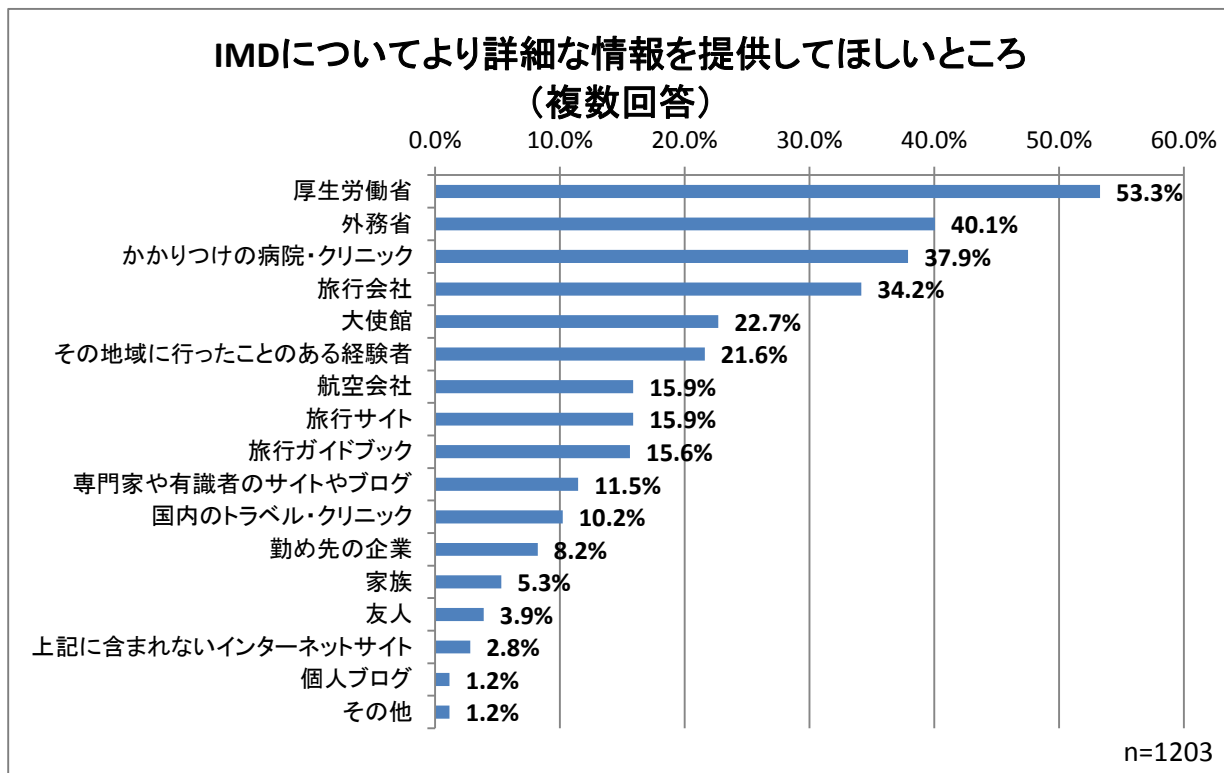


【Q17】IMDについて、より詳細な情報を提供してほしいと感じるのはどこですか。(複数回答)

「厚生労働省」「外務省」と国により詳細な情報の提供を求める回答が最も多かった。次いで、「かかりつけの病院・クリニック」「旅行会社」「大使館」となった。

n=1203 (MA)

	n	%
厚生労働省	641	53.3%
外務省	482	40.1%
かかりつけの病院・クリニック	456	37.9%
旅行会社	411	34.2%
大使館	273	22.7%
その地域に行ったことのある経験者	260	21.6%
航空会社	191	15.9%
旅行サイト	191	15.9%
旅行ガイドブック	188	15.6%
専門家や有識者のサイトやブログ	138	11.5%
国内のトラベル・クリニック	123	10.2%
勤め先の企業	99	8.2%
家族	64	5.3%
友人	47	3.9%
上記に含まれないインターネットサイト	34	2.8%
個人ブログ	14	1.2%
その他	14	1.2%
総数	1203	301.4%





本調査に関するお問い合わせ先:

株式会社QLife 広報担当 田中 智貴

TEL : 03-3500-3235 / E-mail : [info@qlife.co.jp](mailto:info@qlife.co.jp)

<株式会社QLifeの会社概要>

会社名 : 株式会社QLife(キューライフ)

所在地 : 〒100-0014 東京都千代田区永田町2-13-1 ボッシュビル赤坂7F

代表者 : 代表取締役 山内善行

設立日 : 2006年(平成18年)11月17日

事業内容 : 健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業

企業理念 : 医療と生活者の距離を縮める

サイト理念 : 感動をシェアしよう!

URL : <http://www.qlife.co.jp/>

---